

▲▲▲ 奥多摩・本仁田山の尾根を集中的に歩く ▲▲▲

報告:T. F.

本項は2021年11月から12月にかけて集中的に4回歩いた報告を纏めたものです。
従って、それぞれの回の山行報告記事は「その1」から「その4」のそれぞれをご覧ください



(チクマ山の少し先から見上げた本仁田山。巨大で見栄えが良い。
とても1,200mを少し超えた程度の山には見えない。報告「その4」参照)

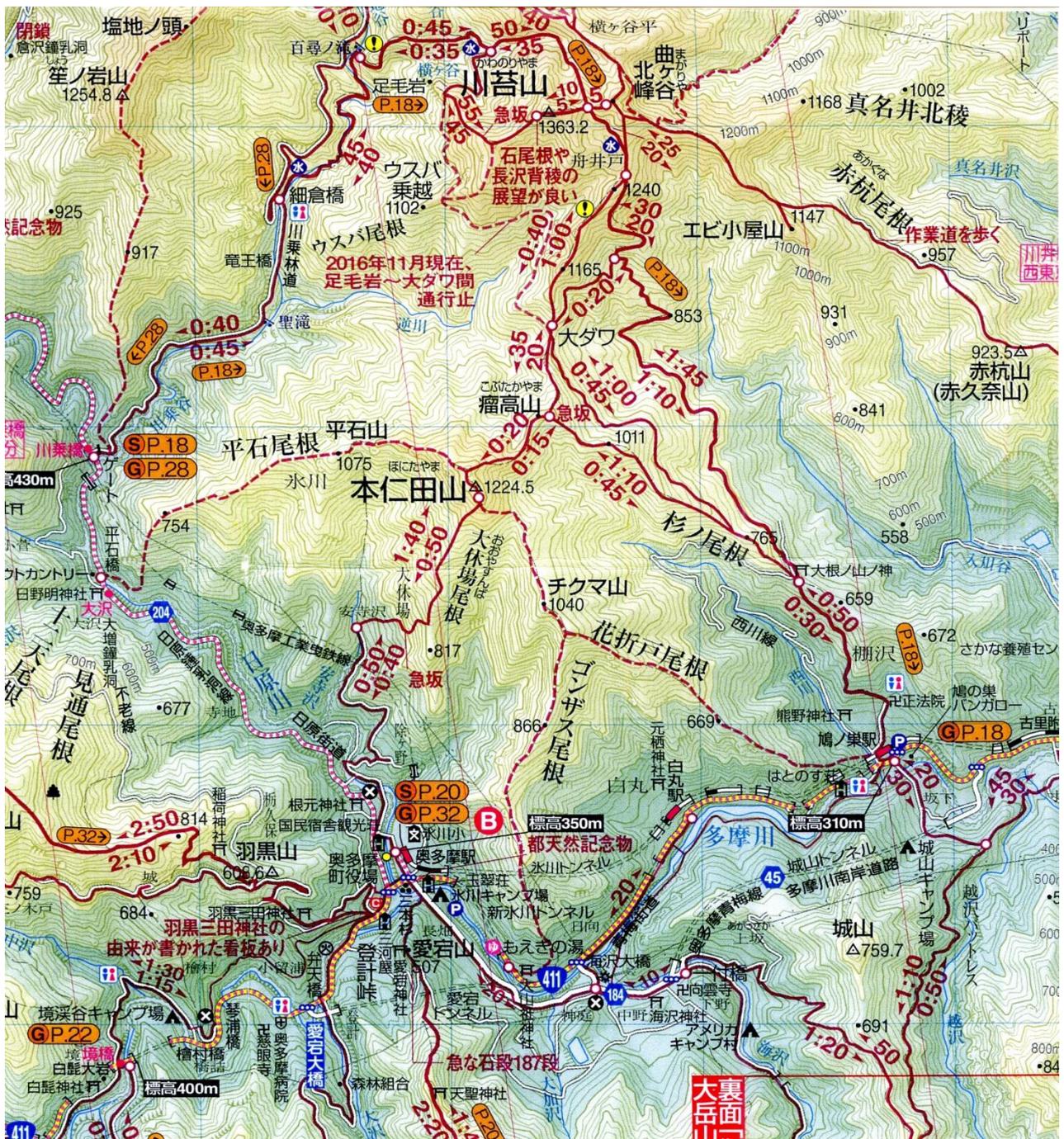
新型コロナ禍により、多くの方々が登山を控え気味にされているが、小生の場合はコロナ以前の問題、膝関節などの不調のため、長らく山を控え気味に、また体調と相談しながら行ける時も、易しくて短時間で歩ける山ばかり歩いていた。

陽の短いこの時期でも日帰りで登山を味わえるようなどこか適当なところはないかと、「山と高原地図」の「奥多摩」を眺めていた。すると「本仁田山」に眼が止まった。

多くの尾根道が本仁田山に通じていて、基点の駅も奥多摩駅、鳩ノ巣駅と二つある。一般ルートでは「大休場尾根」、瘤高山経由の「杉ノ尾根」の二本。赤の破線ルートでは「平石尾根」、「花折戸尾根」、そして花折戸尾根のチクマ山の少し下で合流する「ゴンザス尾根」の三本がある。歩いたことがあるのは大休場尾根のみで、しかもかなり昔のこと。

ヨシッ！歩いてみよう！と、2021年11月から12月にかけて、ひとりで集中的に歩いてみた。

(次頁に地図)



(本仁田山周辺地図、出典：昭文社「山と高原地図 奥多摩」2017年版)

その1. 杉ノ尾根を登り、大休場尾根を下る

◎期日：2021年11月6日(土)

大休場尾根は奥多摩三大急登で知られている。一般ルートとはいえ、最初に急な尾根道を登るのはきついだらうと最も楽そうな杉ノ尾根を登ることとして、下りは破線ルートの「ゴンザス尾根」で計画した。

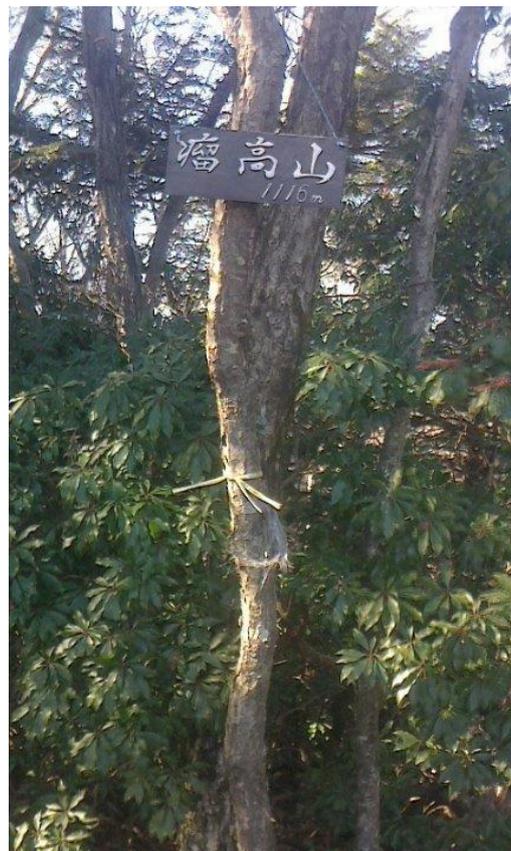
だが、思わぬチョンボをしてしまった。何と「地図」をどこかに落としてしまったのだ。鳩ノ巣の駐車場を出発したとき、守屋さんの奥多摩登山詳細図(東編)のコピーを確かに折り畳んでポケットに入れた。そして最初のチェックポイント、川苔山方面との分岐点でもある「大根ノ山ノ神」にて一本立てるとき、地図を確認しておこうとしたところ見つからなかった。いつもは元の地図はザックの雨蓋に入れていたが、この日に限って元の地図も最初から持参していなかった。スマホを持たないので紙の地図が唯一絶対なのだが、……………。

「まあ、何とかなるだろう」と、先に進んだ。杉ノ尾根は意外にも誰にも会わず、静かで歩き易い道であった。後半の脚力に不安があったので、ゆっくりと歩んだ。最後に急登をひと登りすると瘤鷹山に到着した。小さな可愛い山頂であった。本仁田山に向かうと一気に人の姿が増えた。皆さん川苔山を目指しておられるようであった。



(大根ノ山ノ神。撮影は11月28日、登路:ゴンザス尾根、
下山路:杉ノ尾根の際に撮影)

(瘤高山山頂。小さなピークだった。撮影:11月28日) ⇒



本仁田山の手前で平石山からの道の合流点を確認して、
丁度11時に標高1,224.5mの本仁田山山頂に到着した。

山頂では数パーティが昼食中であった。小生も簡単な昼食を摂った。晴れてはいるが、富士山はあまりすっきりと見えなかった。

ゆっくりとはせず、腰を上げて下りはじめた。すぐに分岐に到着した。右は奥多摩駅への大休場尾根、左は鳩ノ巣駅方面への花折戸尾根だ。ゴンザス尾根へは先ずは花折戸尾根を下らなければならない。花折戸尾根方面に「鳩ノ巣駅側の登山口の橋が封鎖されており、渡ることができません」と掲示されていた。大休場尾根はメインルートであるだけに、実にしっかりした道が下っているが、花折戸尾根は歩く人が少ないためか、道がほとんど見えないほど落ち葉で覆われていた。



(本仁田山山頂からの富士山。11月から4回
登ったが、毎回すっきりとは見えなかった。
12月19日撮影)



(大休場尾根と花折戸尾根の分岐。「鳩ノ巣駅側の
登山口の橋が封鎖されており、渡ることができ
ません」と掲示されていた)

これが登山道かな？と思いながら薄い踏み跡を下り始めるが、急斜面に落ち葉が一杯でダブルストックでもよく滑る。樹に巻かれたタオルやシャツなどを目印に慎重に下り、ようやく広々とした鞍部（池ノ平と呼ばれている）に到着した。前後にひとの姿は見えない。

いったいここはどこなのか？ 前日見た地図の記憶では「ひとつ山(チクマ山)を越えてから分岐を右折、南へ」下るのがゴンザス尾根であったが、……。踏み跡を探してウロウロしたが、よく分からない。地図無しで破線ルートをおのまま行くのはリスクが高い……。思案の結果、引き返すことにした。

滑りに滑って下ってきた急斜面を、今度はヒュー、ヒュー、フュー、フューと登り返す。落ち葉で滑るのでなかなかきつい。ようやく大休場尾根との分岐まで登り返した。一休みして大休場尾根を下った。

大休場尾根は多くの人が歩くためか、登山道には落ち葉はなく、滑らないので歩き易い。ゆっくり下ってやがて登山口の安寺沢に到着した。後は舗装された車道をのんびりと奥多摩駅に向かった。

ゴンザス尾根は次回、登りコースで歩こうと思った。

<コースタイム.>

鳩ノ巣駅公営駐車場 7:45—大根ノ山ノ神 8:40-50—瘤高山 10:25:35—本仁田山 11:00-11:20—
分岐 11:25—花折戸尾根を下るが鞍部付近にて引き返す—分岐—大休場尾根を下る—安寺沢 14:00
—奥多摩駅 14:40

その2. ゴンザス尾根を登り、杉ノ尾根を下る

◎期日:2021年11月28日

未踏の尾根道は下るより登る方が確実。これが常識と思い、ゴンザス尾根を登ることにした。

朝7時頃、多くの登山姿の方達と一緒に奥多摩駅を降り立った。ほとんどの皆さんはバス乗り場へ。青梅街道方面は誰もいなかった。もえぎの湯の前を通りぬけ、歩道橋を渡って日向集落を行くと、立派な案内標柱があった。「ゴンザス尾根・本仁田山」が上を向いていた。



(ゴンザス尾根の取り付け)



(636mのNHK施設への道案内杭)

となりが大山祇神社。まずはザックを降ろして、本日の安全登山を祈願。再びザックを担ぎ、細い階段を登った。すぐ先に「NHK施設」と書かれた杭があった。尾根の途中にNHKの施設があるので、これに至る道案内の杭なのだろう。

道は山腹を行くが、祠を過ぎてから直進と上に向かう分岐があった。尾根を登るはずであるから当然、

上に向かう道に行く。NHK の杭もその道にあった。

尾根に出るとひたすら登るだけの一本道。やがてNHKの中継局のアンテナに到着(636m)。一本立てる。この先、送電線4号鉄塔、5号鉄塔、電波塔と続く。施設があると道は明瞭だ。特に難所や分かりにくい箇所もない。気が付くと平石山や本仁田山が見えていた。



(途中で平石山<中央>、本仁田山<右端>？が見えた)



(電波塔)

足を労りながら休憩を繰り返し、ゆっくり行くと標柱が目に入った。花折戸尾根との分岐であった。鳩ノ巣方面にもしっかりとした道が続いていた。やれやれと一本立てる。まだ誰にも会わない静かなルートであった。この分岐からチクマ山は近かった。三角点のそばの樹に「筑摩山」と手書きの表示があった。またまた一本を立てていると、人の声がした・・・若い男女の二人連れがやってきた。

「鳩ノ巣から登ってきた」、「橋は渡れないが、鳩ノ巣荘の近くから登れる」とのこと。彼らはほとんど休まずに本仁田山を目指して登って行った。



(ゴンザス尾根と花折戸尾根との分岐)



(チクマ山山頂、「筑摩山」の札と三角点あり)

少し間をとって出発。しばらく行くと赤テープがあった。そのすぐ先は前回、道が不明瞭のため引き返した地点であった。あのとき、もう少し丁寧に探せば道は見つかったかも知れない。しかし、未踏の破線ルートは地図無しでは無理しないのが安全・安心と思う。

最後の本仁田山一番の急登をまたまたヒュー、ヒュー、フゥー、フゥーと頑張って登り、分岐に到着。

本仁田山山頂はすぐ先で、11:30 到着した。取り付きから何と4時間もかかっていた。

チクマ山で出会った若い二人連れが休憩中であった。しばらくして男性が「下りはゴンザス尾根を降ります」と言って腰をあげた。「道は明瞭ですよ」と伝えると、女性がニコッと微笑んで出発していった。昼食後は前回登りに使った杉ノ尾根をのんびりと下った。(本仁田山山頂での一枚)⇒



<コースタイム>

登山口(神社の隣)7:30—NHK 施設?8:20—8:25—送電線4号鉄塔8:40—8:45—電波塔9:00—9:05 —
花折戸尾根分岐 10:10—10:20—筑摩山 10:30—10:40—大休場尾根分岐 11:25—本仁田山山頂
11:30—11:55—瘤高山 12:15—12:20—大根ノ山ノ神 13:15—13:30—鳩ノ巣駅公営駐車場 14:05

その3. 平石尾根を登り、大休場尾根を下る

◎期日:2021年12月4日(土)

計画では「ゴンザス尾根を下る」ことにしていたが、またしてもチョンボをしてしまった。予定の電車でタッチの差で乗り遅れてしまった。このため奥多摩駅から予定のバスに乗れず、次のバスまで1時間と少し待つことに、……。これが大きく響いたことと脚力不足で大休場尾根を下ることになった。

奥多摩駅前にて待ちに待ったバスに乗り、大沢バス停で下車。降り立ったのは3名。平石橋を渡ったのは小生ひとり。橋を渡って右折して細い舗装された道を行くと、赤い消防ホース箱・消火栓があった。ここが守屋さんの奥多摩登山詳細図(東編)にあった取り付けだ。

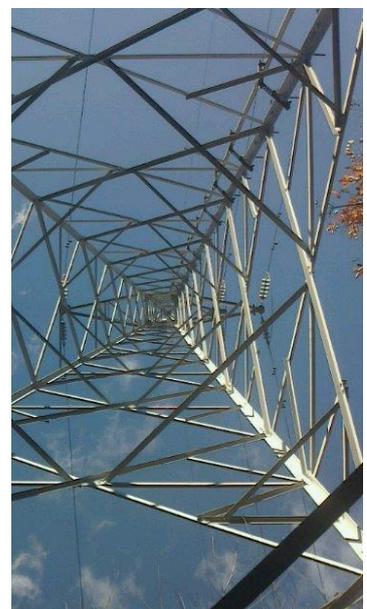
これより破線ルートらしい山道となり登って行くと、いくつもの落石防止用の巨大な柵に突き当たった。その先の道が不明瞭で、うろうろと探すがよく分からない。とにかく登ればよいはずなので、柵の横を強引に登った。少し登ると山道に合流した。植林帯の急斜面をジグザクに登って行くと、黄色い送電線の案内標柱が立っていた。「日原線12号と13号」の分岐であった。左の13号方向は侵入禁止の木の枝が何本か置いてあったので、12号方面をジグザグに登って行くと、送電線の鉄塔に出た。ここで尾根に乗った。



(消火栓・消防ホースが取り付けの目印)



(送電線の案内ポール)



(12号鉄塔の下を通過)

すぐ先に安寺沢への分岐があり、古い標柱があった。安寺沢方面はあまり歩かれていないように思われた。ゆっくり登ると754mに到着。尾根道は穏やかで気持がよい。次のピークも穏やかで広く気持のよいところであった。前後に人の姿は無く自然林の中をゆっくりと登って行くと石で造られた古い祠があった。安全登山を祈願する。



(左：穏やかで
気持ち良い
754m 付近)



(右：石の祠)

静かな尾根が続くが、急なところは落ち葉で滑るので歩きにくい。途中で歩き易い傾斜の緩いところを進んで行くと、尾根を外してしまった。見上げると尾根は頭上はるか上。これはヤバイ！ 意を決して尾根を目指して急斜面をヒュー、ヒューと登り返し、尾根に復帰した。

更に歩いていくと、やがて本仁田山の山頂と同じような石積みがあった。小さな板に手書きで「平石山」とあった。ようやく平石山(1,075m)に到着であった。既に11:50となっていた。地図を見ると、本仁田山までの距離は約1Km。両山頂間の標高差は150m程だが、下って登り返しもある。時間は予定より遅れているが、ここまできて焦ることは無い、と一本立てた。

一度下ってゆっくり進んで行くとモノレールがあった。これをまたいで行くとようやく見覚えのある標柱が見えた。縦走路との合流点、先月、チェックしておいた本仁田山まで100mの地点であった。



(平石山 山頂)



(本仁田山～川苔山の縦走路合流点)

12:45、ようやく本仁田山山頂に到着した。守屋さんの地図のコースタイムは大沢バス停より2:40であるが、何と4時間も要していた。カップ麺を食べながら下山ルートをどうするか考えた。計画ではゴンザス尾根であった。しかし、予定時間を大幅にオーバーしていること、脚力に不安があること、陽が短い時期であることから1時間ほどで安全地帯の舗装道路に降りられる大休場尾根を下ることにした。平石尾根は自然林が多く残っているので、新緑や紅葉の時期に改めて歩きたいと思った。

<コースタイム>

大沢バス停 8:45—取り付き（消防ホース）9:00—9:05—巡視路標柱(N012, 13分岐) 9:40—45—
送電線鉄塔 10:00—10:10—安寺沢方面との分岐 10:15—754m—石の祠(870m) 10:55—11:00—
平石岳(1,075m) 11:50—12:00—モノレール—縦走路合流 12:35—12:40—本仁田山 12:45—13:10—
花折戸尾根分岐 13:15—大休場尾根を下る—安寺沢 14:15—奥多摩駅 15:00

その4. 花折戸尾根を登り、杉ノ尾根を下る

期日:2021年12月19日(日)

花折戸尾根は鳩ノ巣駅のすぐ近くから取り付けるのが魅力だ。先月ゴンザス尾根を登った時、チクマ山で出会った方の情報を元に、ネットで取り付きを調べたところ二カ所あるらしい。青梅街道をトンネルの手前で横切るとすぐ先に、短い急な階段の上に祠が見える。この階段を登るか、そのすぐそばの小林商店の横の階段を登るか、どちらからしい。

車道から取り付きの二つの階段を見比べたところ、祠の前の階段は急で、小林商店の横の階段は緩やかであった。緩い方の階段を登らせていただいたところ、その先は急なハシゴが待っていた。甘くはなかった。踏み跡を登って行くと、山道になり「花折戸尾根」と書かれた小さな板の表示があった。その先に御堂があった。「新四国八十一番大徳院」とあった。安全登山の祈願をして通過したが、山に慣れていない人がここにお参りするのは大変だろう。すぐ先に古い壊れた標柱があった。どうやら撤去された橋への分岐らしい。



(取り付きのひとつ、祠の階段を登る)



(御堂、「新四国八十一番大徳院」)

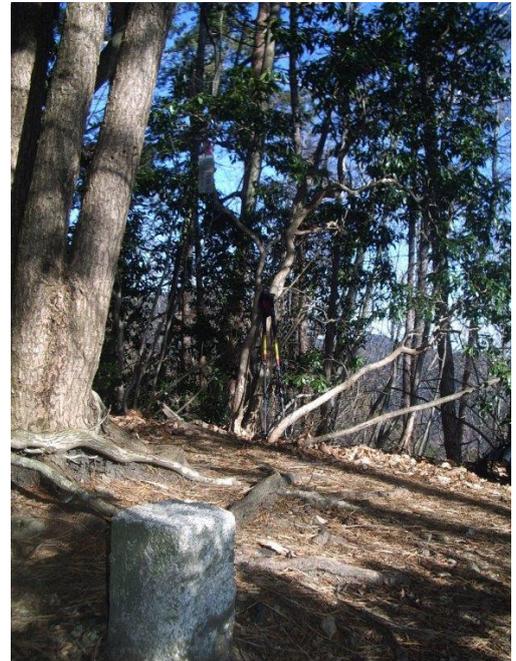
この先、急な登山道をひたすら登って行くと、左下に白丸ダムが見えた。しっかりした登山道が植林帯の中に続いており、ゆっくり歩を進める。前後に人の気配がなく静かであった。ゆっくり歩を進め、やがてゴンザス尾根との分岐に到着した。先月、ゴンザス尾根を登ってここに到着したときは、「やっと分岐に到着した」とホットしたものだった。今回も同様であるが、懐かしく感じ、一本立てる。

すぐ先のチクマ山でも一本立てる。うっかりすると気づかずに通過してしまいそうな目立たないピークではあるが、三角点と手書きの「筑摩山」の表示がある。筑摩山からは一度下るが、見上げる本仁田山は巨大で見栄えがよい。とても 1,200m を少し超えた程度の山には見えない。またまた最後の急登をヒュー、ヒュー、フゥー、フゥーと登った。登りでも落ち葉で滑るので足に力が入る。ついに途中で足が攣ってしまった。この登りは本仁田山一番の急登と思う。

左：途中にあった案内標識。誰かが補修してくれた



右：チクマ山の三角点。山名表示は正面の木に掛っていた



(チクマ山の少し先から見上げた本仁田山)

<巨大で見栄えがよい。とても 1,200m を少し超えた程度の山には見えない>

12:40、ようやく本仁田山に到着した。守屋さんの地図では取り付きより 3:10 であるが、約 4 時間も要していた。山頂では多くの人が休んでおられた。残念ながら富士山はまたしてもすっきりしていなかった。

下りはまたまた瘤高山を経て杉ノ尾根を下った。やはり赤線の一般登山道は安心して歩ける。大根ノ山ノ神から先は熊野神社を経由して鳩ノ巣駅に下った。熊野神社ははじめて寄ったが、立派な神社であった。無事下山の御礼をして駐車場に向かった。

しかし、鳩ノ巣駅公営駐車場のトイレといい、奥多摩駅のトイレといい、なかなか綺麗だ。地域の皆さん、関係者の方々の熱意を感じた。

<コースタイム>

取り付き（道路から階段を登る）8:35—新四国八一番大徳院 8:45—橋への分岐—白丸ダムを見下ろす—ゴンザス尾根分岐 11:15-20—チクマ山 11:30-35—大休場尾根分岐 12:30-35—本仁田山 12:40-13:10—瘤高山 13:30-35—大根ノ山ノ神 14:40—熊野神社—鳩ノ巣駅公営駐車場 15:20

（了）